

ハスカップ座談会

〈上〉

苫小牧市美術博物館はこのほど、同館で開催中の企画展「ハスカップ―原野の恵みと描かれた風景―」の関連イベントとして「ハスカップ座談会」を開いた。「調べる」を守る「食べる」の観点から、ハスカップに関わる3人が講演した。要旨を全3回で紹介する。

私の研究は、ハスカップの分布状況からスタートしました。日本では苫小牧が個体数で一番大きな自生地なんです。釧路湿原や標津湿原など道東にも自生地があります。類似町のアポイ岳など山の方にもある変わった植物です。私が確認した一番南は栃木県の戦場ヶ原です。ハスカップには、染色体数が2倍体のものと4倍体のもの

の、大きく2グループがあります。2倍体は例えば釧路湿原など道東の方にあり、他の地域は全部4倍体、本州も

体に戻ることはないの、2012年から、中国を中心に倍体がより古いグループといふことになりまして。4倍体になるといろいろな遺伝的な情報も増え、環境への適応能力が上がります。日本各地に広がっていったのかなと想像して

に沿った所辺りではないかと考えられます。ロシアのサンクトペテルブルクで、さまざまなハスカップのコレクションをしている研究所があり、そのコレクションをお借りしてDNAを調べると、世界のハスカップを6個のタイプに分けることができました。中国の「タイプ1」が一番古く、北海道のものが基本的に「タイプ2」。面白いことに、栃木県の個体は北海道のものとは全然違うタイプであることが分かってきました。北海道の「タイプ2」は元来中国の東の方にも現れてくるので、祖先が近い、ということも分かってきました。

苫小牧の一番大きな自生地 個体数

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター准教授 星野洋一郎さん



「調べる」をテーマに語った星野准教授

「調べる」をテーマに語った星野准教授は、勇払湿原のものは大雪山の比較的近いグループ。地理的に近いものほど、系統も近いという関係が分かりました。

また、2倍体がたくさん現れる所ほどハスカップの起源に近いと考えられ、その情報も重ねて考えると恐らくハスカップの起源は中国の、ロシアとの国境沿い、アムール川

4倍体です。植物が分化していく時は、基本的に2倍体からスタートし、4倍体は2倍

日本のはスカップはどこから来たのかを調べるため、2

が興味を持っていることの一つです。

ハスカップ座談会

〈中〉

私に勇弘原野でハスカップ

がどう生育しているかを中心

にお話したいと思えます。勇

弘原野のハスカップという

時、低木の広がる所がハスカ

ップの自生地と想像されるか

と思うのですが、実際はハン

ノキの森になっている。ハン

ノキを切れば良いのでは、と

切ってみても、また生えてき

ます。全く効果が無い。

こうした森の中でハスカッ

プが本当に生き延びていける

のか。こんなに多く自生して

いるのが勇弘原野しかない中

で、この場所がこういう状態

で良いのか。原生地を見守っ

ていく後見人がいないという

ことにも気がきました。そこ

で、ハスカップの原生地がど

うなっているかを見えるよう

にして、どう守っていけるか

を考えていくことが、NPO

を立ち上げた非常に重要な目

ハスカップは大丈夫なのかと
いうと大丈夫ではない。今、
ノキはハスカップと同じ温原
に出ています。乾燥してい
る大地に出てくるミスナラや
コナラも生え始めている。ま
た、高さが3メートルのハス
カップが現れてきている。そ
将来、原野のハスカップが

原生地の推移、調査を

NPO法人苦東
コモンズ事務局 局長 草薙 健さん



ハスカップの自生地の現状
を調べる草薙事務局 局長

どう推移していくかを占う調
査研究は、まだ何もされてい
ません。原野のハスカップは
どんなに太くても直径4〜5
センチまでにしかならず、年輪を
調べると50年を超えません。
これがその後どう次の世代に
関わっていくかが、実はよく
分からない。私の仮説ですが、
勇弘原野のなれの果ては(植
生遷移の先行地域である)千

歳ハスカップの自生地のよ
うになるのだろうかと思っ
ています。こういうことを市民の
皆さんと共有するため、この
一大原生地を何とか可視化し
なきたいと考えていま
す。昨年ドローンを飛ばし、
上空から自生地を撮影したの
もそのためです。

他地域を見てきたので
が、市民がこうしたコモンズ
(共有地)のような所にみん
なでハスカップを探りに行く
風習は千歳と勇弘原野一帯に
しかない。千歳の方は下火に
なってきたおり、そうすると、
また別の意味も生まれてくる
のではないかと考えていま
す。私たちがもう一度ハスカ
ップのことをもっと知り、研
究者の方たちにも調査しま
らい、一部の人が考えたい
うより、博物館が中心になっ
て総合的に考えることが、時
代の要請なのではないかと考
えています。

さる3メートルになり枯れ始め
ているのを見て、これは大変
スカップが枯れているような
状況が、よく見られる。ハン

生遷移の先行地域である)千

ハスカップ座談会

〈下〉

山口農園では2005年に父が他界し、米農家からハスカップ專業農家として出発しました。ハスカップ栽培は母が1978年から始め、これで何とか日本一のハスカップ農園になりたいと夢を見て、厚真町をまず日本一の産地にしたいと考えました。農園のハスカップの栽培面積は4・3畝、約5000本を育てています。

一つのバックに酸っぱいの甘い木を抜いていく作業を進むの苦しいのいろいろな味がめましました。苦いものが無くなつてしまふのが、栽培の現状でした。山口農園では78年もの、味の良いものを残し、に栽培が始まってすぐ、母が挿し木で増やしていくんです。「このまま苦いもの、渋いものね。」

の品種を僕が苗木を作り、生産者に販売しており、町は苗木の助成をしています。そうすることでほとんど厚真町の畑が増え、4年ほど前に栽培面積日本一のまちになりました。

品質向上で日本一を

山口農園代表 山口 善紀さん



厚真町のハスカップの現状などを語った山口代表

それが認められ、山口農園で選抜した二つの品種が選ばれ09年に「ゆうしげ」「あつまみらい」という品種を登録することになりました。どちらも糖度は12以上です。「ゆうしげ」は、極めて酸味が少なく、「あつまみらい」は、「ゆうしげ」と同じくらい糖度があるんですが、爽やかな酸味が特長ですね。厚真町では

ハスカップの厚真町での栽培は、苫東開発の時に勇払原野で自生している株を移植したのが始まりです。山口農園としては勇払原野に78年ごろから母が入り、3年間で約700本の株を畑に植えたと聞いています。

ハスカップの単価は、かなり需要で値段が上下して、ほかの産地も増えてきているというところで、他産地との差別味、形、大きさがありません。

のを作っているハスカップの離れが起きるかもしれない」と、息子たちに味見をさせ、

厚真が他産地と大きく違うのは、生食用を目指したこと。農協のハスカップ部会は10年前は60人ちょっとでしたが、新しいおいしい品種が作れるということでは今は98軒あります。今、厚真町の栽培面積は約28畝となり、美唄は20畝くらいで、差をつけることができました。同じ品種を植えることで、自分たちの技術が分かり、もっと良くしていきましょう。ここ数年厚真のハスカップは品質がすごく上がってきています。「日本一」の作物というのには厚真で今まで無くない、生産者は日本一を育てていくという夢を持っている、非常に活気があります。